

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成27年8月5日

【四半期会計期間】 第68期第1四半期(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

【会社名】 クリエイト株式会社

【英訳名】 CREATE CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 福井珠樹

【本店の所在の場所】 大阪市西区阿波座一丁目13番15号

【電話番号】 06-6538-2333

【事務連絡者氏名】 常務取締役 管理本部長 吉成隆則

【最寄りの連絡場所】 大阪市西区阿波座一丁目13番15号

【電話番号】 06-6538-2333

【事務連絡者氏名】 常務取締役 管理本部長 吉成隆則

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第67期 第1四半期 連結累計期間	第68期 第1四半期 連結累計期間	第67期
	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (千円)	6,347,276	6,469,923	28,316,716
経常利益又は経常損失() (千円)	23,431	15,257	331,910
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失() (千円)	13,010	27,073	143,352
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	15,483	11,322	177,108
純資産額 (千円)	3,505,439	3,608,978	3,651,457
総資産額 (千円)	13,878,225	13,978,009	13,879,446
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額() (円)	3.34	6.95	36.81
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	25.3	25.8	26.3

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益又は四半期純損失()」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()」としております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第67期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び第67期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安の長期化による商品の値上げ等の影響で消費者マインドの持ち直しのテンポは鈍くなっているものの、政府、日銀の経済政策、金融政策の効果により企業収益や雇用環境に改善が見られるなど、景気は緩やかな回復基調を維持しています。

管工機材業界におきましては、新設住宅着工戸数が前年比プラスに転じるなど、市場環境に持ち直しの動きがみられます。一方で、人手不足や資材の値上がりといったマイナス要因も見受けられ、引き続き予断を許さない状況となっています。

このような状況の下、当社の販売ネットワークを駆使し、営業所に併設したヤードを活用したタイムリーな商品供給によって需要の取り込みに注力しましたが、業界内の競争は激しく特に収益面で苦戦を強いられました。

以上の結果、連結売上高は6,469百万円（前年同期比1.9%増加）となり、売上総利益は1,118百万円（前年同期比1.6%減少）となりました。

販売費及び一般管理費は19百万円の増加となり、営業損失は37百万円（前年同期は0百万円の利益）となりました。また、経常損失は15百万円（前年同期は23百万円の利益）となりました。以上の結果、法人税等考慮後の親会社株主に帰属する四半期純損失は27百万円（前年同期は13百万円の利益）となりました。

セグメントの業績を示すと次のとおりです。

[管工機材]

当セグメントにおきましては、売上高は6,419百万円（前年同期比1.6%増加）、セグメント損失(営業損失)は23百万円（前年同期は14百万円の利益）となりました。

[その他]

当セグメントは、報告セグメントに含まれない事業セグメントで主に室内装飾の施工であり、売上高は50百万円（前年同期比69.9%増加）、セグメント損失(営業損失)は13百万円(前年同期は13百万円の損失)となりました。

管工機材の商品区分別状況は以下のとおりです。

排水・汚水関連商品

当商品群は、ビルやマンションの排水・汚水配管に使用される商品が中心となります。引き続き需要が低水準で推移するなかで、前年大きく実績を伸ばした反動を受けて、排水鋳鉄管及び耐火二層管等の売上が減少し、当商品群の売上高は1,393百万円（前年同期比6.1%減少）となりました。

給湯・給水関連商品

当商品群は、戸建住宅や集合住宅の給湯・給水配管に使用される商品が中心となります。給水関連商材は、インフラ整備の部材として需要は安定しています。溶接継手、ガス管、ステンレス類が売上を伸ばしたことにより、当商品群の売上高は1,632百万円（前年同期比2.5%増加）となりました。

化成商品

当商品群は、戸建住宅や集合住宅の外溝部材が中心となります。新設住宅着工戸数がようやく前年比プラスに転じ、市場環境が好転、需要が回復基調となるなかで、ビニルパイプが大きく売上を伸ばした結果、当商品群の売上高は1,854百万円（前年同期比2.8%増加）となりました。

その他

当商品群は、継続して取り組んでいる住宅設備機器を含む商品群です。前年には消費低迷の影響を強く受けていましたが、フレキ、バルブ、加工管等で実績を伸ばしたことにより前年比プラスに転じ、当商品群の売上高は1,540百万円（前年同期比7.1%増加）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の流動資産の残高は、前連結会計年度末に比べて102百万円増加し、流動資産合計で9,792百万円となりました。この主な要因は、現金及び預金が96百万円増加、受取手形及び売掛金が161百万円減少、商品及び製品が196百万円増加したこと等によるものです。

当第1四半期連結会計期間末の固定資産の残高は、前連結会計年度末に比べて4百万円減少し、固定資産合計で4,185百万円となりました。この主な要因は、建物及び構築物が8百万円減少したこと等によるものです。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末の流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べて189百万円増加し、流動負債合計で7,994百万円となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金が184百万円減少、短期借入金が446百万円増加、その他が135百万円減少したこと等によるものです。

当第1四半期連結会計期間末の固定負債の残高は、前連結会計年度末に比べて48百万円減少し、固定負債合計で2,374百万円となりました。この主な要因は、長期借入金が28百万円減少、役員退職慰労未払金が23百万円減少したこと等によるものです。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の純資産の残高は、前連結会計年度末に比べて42百万円減少し、純資産合計で3,608百万円となりました。この主な要因は、利益剰余金が58百万円減少、その他有価証券評価差額金が11百万円増加したこと等によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年8月5日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,969,000	3,969,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	3,969,000	3,969,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年6月30日		3,969,000		646,494		786,078

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 74,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,894,100	38,941	
単元未満株式	普通株式 500		
発行済株式総数	3,969,000		
総株主の議決権		38,941	

- (注) 1 「単元未満株式」の欄の株式数には当社所有の自己株式 58株が含まれております。
2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成27年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) クリエイト株式会社	大阪市西区阿波座一丁目 13-15	74,400		74,400	1.87
計		74,400		74,400	1.87

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	949,977	1,046,052
受取手形及び売掛金	5,335,892	5,173,972
電子記録債権	305,322	277,768
商品及び製品	2,494,781	2,691,100
仕掛品	236,537	253,106
原材料及び貯蔵品	159,744	158,218
繰延税金資産	124,113	137,375
その他	133,328	103,627
貸倒引当金	50,320	48,917
流動資産合計	9,689,378	9,792,303
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	461,628	452,834
機械装置及び運搬具（純額）	33,456	31,833
土地	1,576,016	1,576,016
リース資産（純額）	49,620	45,340
その他（純額）	50,673	53,314
有形固定資産合計	2,171,394	2,159,340
無形固定資産		
リース資産	40,995	35,871
その他	38,834	36,314
無形固定資産合計	79,830	72,185
投資その他の資産		
繰延税金資産	227,305	217,994
その他	1,860,913	1,885,560
貸倒引当金	149,375	149,375
投資その他の資産合計	1,938,843	1,954,179
固定資産合計	4,190,067	4,185,705
資産合計	13,879,446	13,978,009

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,900,843	5,716,584
短期借入金	91,491	538,005
1年内返済予定の長期借入金	1,127,638	1,110,235
リース債務	38,749	38,749
未払法人税等	33,932	26,630
賞与引当金	168,148	256,216
役員賞与引当金	530	530
その他	443,419	307,770
流動負債合計	7,804,752	7,994,721
固定負債		
長期借入金	1,338,742	1,310,549
リース債務	57,303	47,616
役員退職慰労引当金	17,285	17,734
退職給付に係る負債	699,583	709,942
資産除去債務	6,162	6,183
役員退職慰労未払金	175,000	151,100
その他	129,159	131,183
固定負債合計	2,423,236	2,374,308
負債合計	10,227,988	10,369,030
純資産の部		
株主資本		
資本金	646,494	646,494
資本剰余金	803,217	803,217
利益剰余金	2,122,978	2,064,748
自己株式	41,917	41,917
株主資本合計	3,530,772	3,472,542
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	107,472	118,971
繰延ヘッジ損益	72	27
為替換算調整勘定	31,204	34,788
退職給付に係る調整累計額	18,064	17,351
その他の包括利益累計額合計	120,684	136,436
純資産合計	3,651,457	3,608,978
負債純資産合計	13,879,446	13,978,009

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	6,347,276	6,469,923
売上原価	5,210,570	5,351,436
売上総利益	1,136,705	1,118,487
販売費及び一般管理費	1,136,078	1,155,839
営業利益又は営業損失()	627	37,352
営業外収益		
受取利息	832	642
受取配当金	7,554	8,973
不動産賃貸料	16,374	17,563
仕入割引	39,071	33,899
その他	8,093	8,323
営業外収益合計	71,927	69,402
営業外費用		
支払利息	6,637	8,013
手形売却損	10,379	11,301
不動産賃貸原価	11,283	11,214
売上割引	16,095	14,567
デリバティブ評価損	2,607	
その他	2,120	2,210
営業外費用合計	49,123	47,307
経常利益又は経常損失()	23,431	15,257
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失()	23,431	15,257
法人税等	10,420	11,816
四半期純利益又は四半期純損失()	13,010	27,073
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失()	13,010	27,073

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	13,010	27,073
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,172	11,498
繰延ヘッジ損益	22	44
為替換算調整勘定	2,360	3,583
退職給付に係る調整額	683	713
その他の包括利益合計	2,472	15,751
四半期包括利益	15,483	11,322
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,483	11,322
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

厚生年金基金の特例解散について

当社の連結子会社であるダイドレ株式会社が加入する「全日本パルプ厚生年金基金」(総合型)は、平成26年9月26日開催の代議員会において、基金解散の方針が決議されました。なお、基金を解散するにあたり、特例解散の適用を申請する予定であります。同基金の解散により費用の発生が見込まれますが、解散に伴う費用の金額と業績に与える影響につきましては、現時点では不確定要素が多く、合理的な見積り金額が算定できません。今後、見積り金額が判明した時点で、会計処理を行います。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
受取手形割引高	2,376,422千円	2,123,138千円
受取手形裏書譲渡高	189,239千円	155,244千円
手形債権流動化に伴う買戻義務	420,641千円	383,142千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
減価償却費	24,578千円	29,867千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月20日 定時株主総会	普通株式	27,262	7.00	平成26年3月31日	平成26年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月19日 定時株主総会	普通株式	31,156	8.00	平成27年3月31日	平成27年6月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	調整額	合計 (注) 2
	管工機材	計			
売上高					
外部顧客への売上高	6,317,819	6,317,819	29,456		6,347,276
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,047	4,047	3,474	7,522	
計	6,321,867	6,321,867	32,931	7,522	6,347,276
セグメント利益又は損失()	14,353	14,353	13,725		627

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、室内装飾の施工を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に計上した額は一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	調整額	合計 (注) 2
	管工機材	計			
売上高					
外部顧客への売上高	6,419,890	6,419,890	50,033		6,469,923
セグメント間の内部売上高 又は振替高			2,028	2,028	
計	6,419,890	6,419,890	52,062	2,028	6,469,923
セグメント損失()	23,528	23,528	13,823		37,352

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、室内装飾の施工を含んでおります。
2. セグメント損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業損失に計上した額は一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	3円34銭	6円95銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額() (千円)	13,010	27,073
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額 又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額 () (千円)	13,010	27,073
普通株式の期中平均株式数 (株)	3,894,604	3,894,542

(注) 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、前第1四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 8 月 3 日

クリエイト株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森 内 茂 之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池 田 哲 雄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているクリエイト株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、クリエイト株式会社及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。